

川崎区

東海道
川崎宿

歴史を活かしたまちづくり！

江戸時代、東海道には五十三の宿場がありました。そのひとつが1623年につくられた川崎宿です。お江戸日本橋をスタートして、品川宿の次、多摩川を船で渡れば川崎宿。川崎宿が誕生して400年を迎える2023年にむけて、その歴史と文化をまちづくりに活かそうという市民団体が、「東海道川崎宿2023」で、まちなみの整備やイベントの開催などに取り組んでいます。

川崎宿まちなみの整備

東海道川崎宿の沿線に、現在のまちなみと調和をとりながら、宿場町としての風格や趣のあるまちなみを形成しています。



川崎小学校正門



浮世絵トランスボックス

多くの人たちが訪れるまちへ！

～NPO法人かわさき歴史ガイド協会～

多くの人たちに来てもらって、まちを元気にしようとがんばっているのは「かわさき歴史ガイド協会」です。川崎宿・川崎大師周辺・田島を中心にいろいろな史跡を案内してくれます。

地域の歴史をより理解するため、身近な地域に残されている昔の街道や史跡、景観などを調査、見学することを目的とした総合学習に、ガイドを依頼する小学校が増えています。



JR川崎駅東口の地下街アゼリアの観光案内所や、2013年(平成25年)にオープンした東海道かわさき宿交流館でもガイド協会のメンバーが川崎宿のことをやさしく説明したり、質問に答えたりしています。

地域全体で盛り上げよう！

～川崎大師周辺～

川崎大師周辺の地域では、歴史的に有名な史跡や名所が数多くあります。夏に開催される1つに「かわさき大師サマーフェスタ」があります。毎年、海の日に開催され、歴史に関するクイズを解きながら、大師周辺地域の名所を巡ります。



川崎区では、2012年(平成24年)に、区制40周年を記念して、長十郎梨を区の木の一つに選びました。長十郎梨は、明治時代の半ばに川崎区で発見されたと言われ、一時は多くの地域で生産されていました。しかし、その後、新しい品種の登場などにより、現在では見かける機会が少なくなっています。

現在、「多摩川塾」など市民団体のみなさんが中心になって、長十郎梨を語り継いでいく活動をしています。その1つとして、2012年(平成24年)9月に「区の木『長十郎梨』まつり」を開催し、地域の子もたちが中心となって、長十郎梨の魅力を伝えるパレードをしたり、川崎大師駅前では長十郎梨を配ったりしました。

トピックス 東海道かわさき宿交流館

重要な歴史的資源である東海道川崎宿の歴史と文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流の拠点となることを目指して、2013年(平成25年)10月に開館しました。

自分で触ったり操作したりできるような体験型展示が多く、楽しく学べるよ！



まちづくり事例だよ！